

# 社会資本総合整備計画

中間東部・北西部地区都市再生整備計画

平成 28 年 11 月 30 日

福岡県 中間市

(参考様式2) 社会資本総合整備計画

平成28年 月 日

計画の名称										中間東部・北西部地区										重点配分対象の該当																																					
計画の期間										平成26年度～平成30年度(5年間)										交付対象										中間市																											
計画の目標										歴史遺産・近代化史跡を活用したまちづくり																																															
計画の成果目標(定量的指標)										<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の保護に対する満足度</li> <li>史跡の周遊方法であるフットパス利用者の増加による人と人との交流を促進する地域づくり</li> <li>地域歴史講座の受講者数の増加による人と人との交流を促進する地域づくり</li> <li>観光ガイド育成講座の受講者数の増加による人と人との交流を促進する地域づくり</li> </ul>																																															
定量的指標の定義及び算定式										<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">定量的指標の現況値及び目標値</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>当初現況値</th> <th>中間目標値</th> <th>最終目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化財の保護に対する満足度</td> <td>H23 6.1</td> <td></td> <td>H30末 20.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>フットパス利用者数</td> <td>H25 50</td> <td></td> <td>H30末 750</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地域歴史講座の受講者数</td> <td>H25 360</td> <td></td> <td>H30末 600</td> <td></td> </tr> <tr> <td>観光ガイド育成講座の受講者数</td> <td>H25 9</td> <td></td> <td>H30末 30</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>											定量的指標の現況値及び目標値			備考	当初現況値	中間目標値	最終目標値	文化財の保護に対する満足度	H23 6.1		H30末 20.0		フットパス利用者数	H25 50		H30末 750		地域歴史講座の受講者数	H25 360		H30末 600		観光ガイド育成講座の受講者数	H25 9		H30末 30											
	定量的指標の現況値及び目標値			備考																																																					
	当初現況値	中間目標値	最終目標値																																																						
文化財の保護に対する満足度	H23 6.1		H30末 20.0																																																						
フットパス利用者数	H25 50		H30末 750																																																						
地域歴史講座の受講者数	H25 360		H30末 600																																																						
観光ガイド育成講座の受講者数	H25 9		H30末 30																																																						
全体事業費		合計 (A+B+C+D)		124.0百万円	A	124.0百万円	B	0百万円	C	0百万円	D	0百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)		0.0%																																										
交付対象事業																																																									
A 基幹事業																																																									
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考																																								
									H26	H27	H28	H29	H30																																												
A-1	都市再生	一般	中間市	直接	中間市	中間東部・北西部地区都市再生整備計画事業	道路、地域生活基盤施設 706ha	中間市						124.0																																											
合計												124.0																																													
B 関連社会資本整備事業(該当なし)																																																									
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考																																								
									H26	H27	H28	H29	H30																																												
合計												0																																													
C 効果促進事業																																																									
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考																																										
									H26	H27	H28	H29	H30																																												
合計																																																									
番号	一体的に実施することにより期待される効果															備考																																									
D 社会資本整備円滑化地籍整備事業																																																									
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考																																										
									H26	H27	H28	H29	H30																																												
合計																																																									
番号	一体的に実施することにより期待される効果															備考																																									

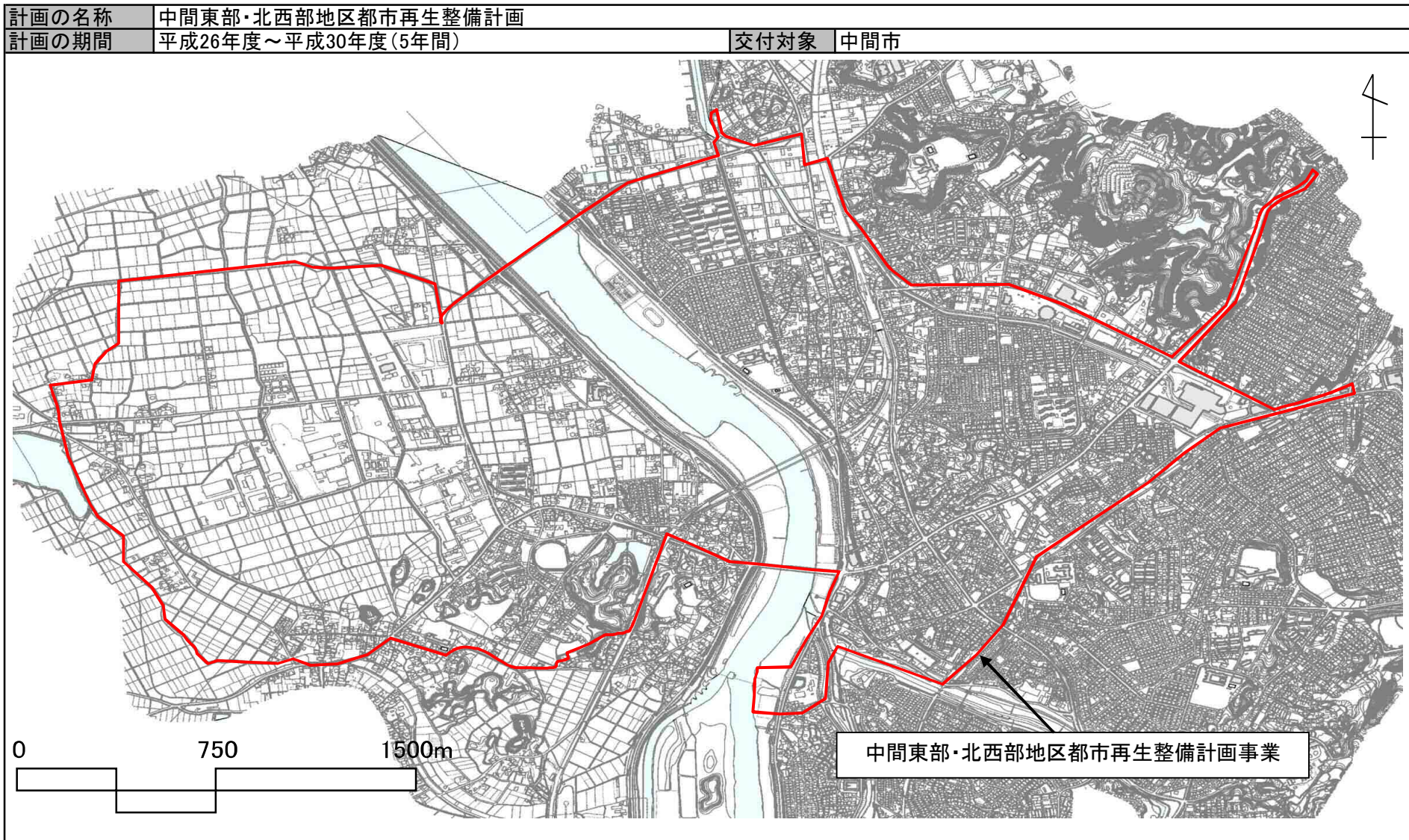
交付金の執行状況

(単位:百万円)

	H26	H27	H28	H29	H30
配分額 (a)	10	14.6	12	9.6	
計画別流用 増△減額 (b)	0	0	0	0	
交付額 (c=a+b)	10	14.6	12	9.6	
前年度からの繰越額 (d)	0	0	0	0	
支払済額 (e)	10	14.6	12	9.6	
翌年度繰越額 (f)	0	0	0	0	
うち未契約繰越額 (g)	0	0	0	0	
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0	0	0	
未契約繰越+不用率 (h = (g+h)/(c+d))	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
未契約繰越+不用率が10%を超えている 場合その理由					

※ 平成26年度以降の各年度の決算額を記載。

# 参考図面



都市再生整備計画(第3回変更)

中間東部・北西部地区

福岡県 中間市

平成28年11月

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	福岡県	市町村名	中間市	地区名	中間東部・北西部地区	面積	706 ha
計画期間	平成	26	年度	～	平成	30	年度
交付期間	平成	26	年度	～	平成	30	年度

<b>目標</b>
大目標
歴史遺産・近代化史跡を活用したまちづくり
目標①: 歴史遺産・近代化史跡の周辺環境整備による魅力あふれる地域づくり
目標②: 歴史遺産・近代化史跡の周遊環境整備による人と人との交流を促進する地域づくり

<b>目標設定の根拠</b>
<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>【まちづくりの経緯】</p> <p>○今回、歴史遺産・近代化史跡を活用したまちづくりに取り組む経緯は、平成25年9月に、中間市にある「八幡製鐵所遠賀川水源地ポンプ室」が、8県11市に立地する近代化産業遺産群とともに、「明治日本の産業革命遺産」として、国がユネスコに推薦する世界文化遺産候補となり、平成27年の世界文化遺産登録へ向けた準備が進んでいることがきっかけとなっている。</p> <p>○「八幡製鐵所遠賀川水源地ポンプ室」はもとより、市内には、歴史遺産・明治以降の近代化に影響を与えた史跡を含めた文化財が多数点在しているが、あまり知られておらず、また、時間の経過とともに忘れられようとしている。</p> <p>○さらに、歴史遺産・近代化史跡の周辺には、道路サインや解説する案内板などもなく、市民はもとより、市外の方が訪れても場所さえわからず、立ち寄って憩うこともできない現状となっている。</p> <p>○このようなことから、改めて、市内の歴史遺産・近代化史跡の周辺環境を整備し、また、訪れた人が周遊できるような場の提供が、多くの市民から要望されていることから、今回、周辺環境整備を行うことで、魅力あふれる地域づくりを行い、市内内外の方向、点在する歴史遺産・近代化史跡を周遊するために必要となるマップや手段を提供することで、人と人との交流を促進する地域づくりを行う。</p> <p>○平成27年7月に「遠賀川水源地ポンプ室」が世界文化遺産登録となったことにより、当該施設が存在する川東エリアの整備だけでなく、川西エリアの整備を合わせて行い、市内全域において魅力ある地域づくりを推進する。</p> <p>【現況】</p> <p>○中間市は、昭和33年の市制施行以降、基幹産業であった石炭産業を中心に発展し、高度経済成長の一端を担っていたが、石炭から石油へのエネルギー革命によって石炭産業が衰退した後は、四大工業都市の一つとして発展しつづけていた北九州市に隣接する地の利を活かし、明るく住みよい調和のとれた住宅環境の整備に力を注いできた住宅都市である。</p> <p>○また、市の中央部を流れる遠賀川によって市域が川東と川西に分断されているが、川東は、なだらかな丘陵を背景に閑静な住宅地と商業地などを形成するとともに、人口の9割が集中し、川西は、広々とした平野部に、美しいのどかな田園風景が広がり、市の振興方針による工場団地が立地している。</p> <p>○近年、市の主要な東西軸である都市計画道路犬王・古月線では、平成18年1月に東西を結ぶ新遠賀橋が開通し、平成21年3月には、JR筑豊本線アンダーパス部分が開通するなど、遠賀川によって隔てられていた東西地区の交流が進む基盤整備が進むとともに、平成23年4月には、川西地区の住民間の交流と川東地区の住民との交流を目的として、都市公園である垣生公園前に地域交流センターが開館し、隣接して地元の特産品などを紹介する直売所もオープンするなど生活基盤の整備も進んでいる。</p> <p>○平成27年7月に「遠賀川水源地ポンプ室」が世界文化遺産登録となったことにより、観光客への対応に向けて整備が進んでいる。</p>

<b>課題</b>
<p>①歴史遺産・近代化史跡の周辺に史跡の内容を解説する案内板や地域住民が憩うためのベンチを整備し、魅力あふれる地域づくりを行う必要がある。(周辺環境整備)</p> <p>②地域住民や市外から訪れた方が、歴史遺産・近代化史跡を周遊する目印となるような道路サインや歩道案内板を整備し、安全安心に周遊できるような魅力あふれる地域づくりを行う必要がある。(周辺環境整備)</p> <p>③歴史遺産・近代化史跡を周遊するための方法である「フットパス」や「レンタサイクル」を導入し、利用促進イベントや市内コースマップ製作によるPRIに取り組むとともに、観光ガイド育成講座や地域歴史講座を開設し、地域住民と市外から訪れた方が、共に活動できる場を提供することで、人と人との交流を促進する地域づくりを行う必要がある。(周遊環境整備)</p>

<b>将来ビジョン(中長期)</b>
<p>【第4次総合計画後期基本計画(平成23年3月)】</p> <p>文化財は、施策の基本方向の中で、市民の財産として末長く保存する目的をもって、市民に貴重な文化財に接する機会を提供し、情操豊かな人づくりと、誰もが訪ねてみたくなる文化の香り高いまちづくりを目指すとしている。</p> <p>【都市計画マスタープラン(平成22年3月)】</p> <p>歴史景観の創出として、本市の伝統・文化を彩る歴史景観の保全を図るとして、点在する近代化産業遺産などは、本市の歴史を伝える施設として、熟度に応じて文化財・歴史景観としての保全について検討を進めるとしている。</p> <p>【中間市景観計画(平成25年3月)】</p> <p>景観計画の区域を市域全域とし、遠賀川と共生しながら長い時間をかけて培ってきた歴史・文化など、本市固有の歴史・文化景観を保全、活用していくとしている。</p>

<b>目標を定量化する指標</b>							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
文化財の保護	%	文化財の保護に対する満足度	史跡周辺の環境整備による文化財の保護を行い、魅力あふれる地域づくりを促進する。	6.1	平成23年度	20.0	平成30年度
フットパス利用者	人/年	周遊方法の一つ。歩いて周遊する方の人数	周遊環境を整備することで、人と人との交流を促進する。	50	平成25年度	750	平成30年度
地域歴史講座	人/年	地域歴史講座の受講者数	歴史遺産を再発見・再認識する場を設け、人と人の交流を促進する。	360	平成25年度	600	平成30年度
観光ガイド育成講座	人/年	観光ガイド育成講座の受講者数	地域住民が、地域の史跡を解説する場を設け、人と人の交流を促進する。	9	平成25年度	30	平成30年度

## 都市再生整備計画の整備方針等

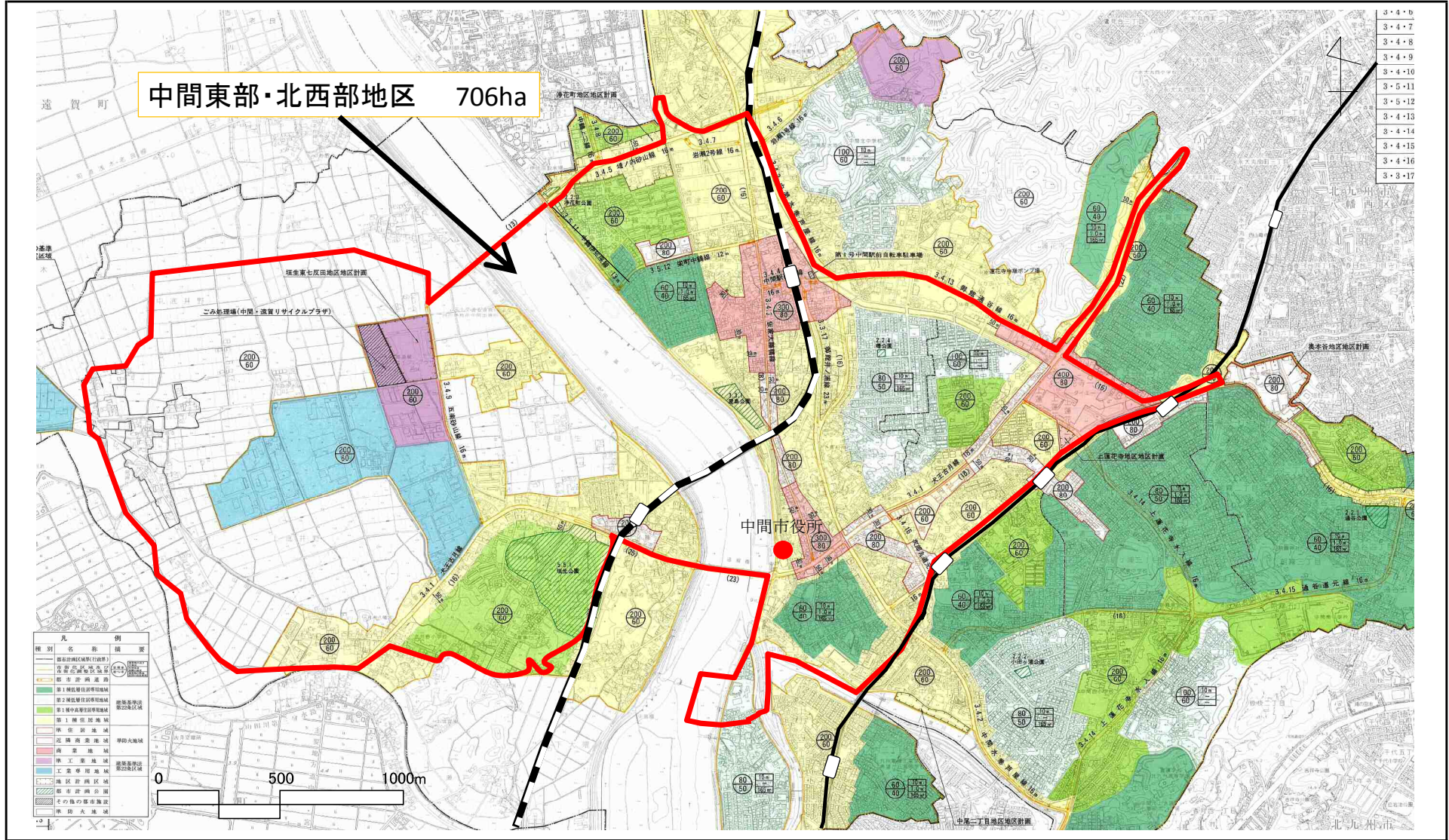
計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・整備方針①歴史遺産・近代化史跡の周辺環境整備による魅力あふれる地域づくり</p> <p>○垣生公園を整備することにより、フットパスコースが広がり、また利用促進イベントを実施する場として多くの訪問者が訪れるよう整備する。</p> <p>○歴史遺産・近代化史跡を訪れる方のために、市内各所に道路サインや歩道上の案内板を設置し、安全安心に移動できる環境を整え、魅力あふれる地域づくりを行う。</p> <p>○御座ノ瀬山周辺を整備することにより、歴史遺産に触れる広場を整備する。</p> <p>○歴史遺産・近代化史跡周辺には、史跡の内容を紹介する解説板やモニュメントが不足しているため、環境を整備し、魅力あふれる地域づくりを行う。</p> <p>○「遠賀川水源地ポンプ室」の世界文化遺産登録に合わせ、川西地区を整備し、市内全域において魅力ある地域づくりを行う。</p>	<p>公園(基幹事業・公園、垣生公園整備事業／市) 地域生活基盤施設(基幹事業・情報板／史跡解説案内板、歩道案内板／市)</p> <p>地域生活基盤施設(基幹事業・緑地、広場／御座ノ瀬山ポケットパーク整備事業／市) 高質空間形成施設(基幹事業・緑化施設等／モニュメント／市) 公園(基幹事業・公園、垣生公園整備事業／市)、地域生活基盤施設(基幹事業・緑地、広場／御座ノ瀬山ポケットパーク整備事業／市)</p>
<p>・整備方針②歴史遺産・近代化史跡の周遊環境整備による人と人との交流を促進する地域づくり</p> <p>○現在も稼働している「遠賀川水源地ポンプ室」は、建物内を見学することができないため、史跡を解説するPRパネルを製作し、地域住民の交流の場である中央公民館にパネルを設置し、史跡の認知度向上はもとより、学習教材として活用することによる地域づくりを行う。</p> <p>○歴史遺産・近代化史跡を訪れる方のために、周遊するために必要な市内コースマップを製作し、また、周遊方法である歩いて回る「フットパス」、有料の自転車を貸し出す「レンタサイクル」を導入し、市内に点在する歴史遺産・近代化史跡を楽しんでもらうツールを提供するとともに、周遊先で出会う地域で暮らす住民との交流を促進する地域づくりを行う。</p> <p>○史跡の周遊方法である「フットパス」や「レンタサイクル」と連携した地域歴史講座や観光ガイド育成講座、周遊方法の利用促進イベントを開催し、地域住民と市外から訪れた方が交流を行いながら共に学ぶことのできる地域づくりを行う。</p>	<p>地域創造支援事業(提案事業／史跡解説PRパネル製作事業／市) 地域創造支援事業(提案事業／周遊環境整備事業／市) 地域創造支援事業(提案事業／周遊方法利用促進事業／市) 地域創造支援事業(提案事業／観光環境促進事業／市) 事業活用調査(提案事業／事業効果分析調査／市)</p>
<p>・</p>	
<p>その他</p> <p>事業終了後の継続的なまちづくり活動の内容</p> <p>フットパス及びレンタサイクルなど、周遊環境の継続的な整備に取り組み、市内はもとより市外からのリピーターを確保するため、地域資源の掘り起こしを進める。</p>	





都市再生整備計画の区域

<p>中間東部・北西部地区(福岡県中間市)</p>	<p>面積 706 ha</p>	<p>区域 中間一丁目、二丁目、三丁目、四丁目、中央一丁目、二丁目、三丁目、四丁目、五丁目、大槻土、中尾一丁目、東中間一丁目、二丁目、三丁目、上蓮花寺一丁目、二丁目、三丁目、四丁目、長津一丁目、二丁目、三丁目、中尾一丁目、二丁目、三丁目の全部と通谷一丁目、浄花町、中腰四丁目、岩瀬一丁目、二丁目、岩瀬西町、土手ノ内一丁目、二丁目、通谷一丁目、岩瀬西町、蓮花寺二丁目、三丁目、大字上底井野、大字中底井野、大字垣生の一部</p>
---------------------------	------------------	--



## 中間東部・北西部地区(福岡県中間市) 整備方針概要図

目標	歴史遺産・近代化史跡を活用したまちづくり	代表的な指標	文化財の保護 (%)	6.1	( 23年度 ) →	20.0	( 30年度 )
			フットパス利用者 (人/年)	50	( 25年度 ) →	750	( 30年度 )
			地域歴史講座 (人/年)	360	( 25年度 ) →	600	( 30年度 )

